

令和元年6月20日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03500

研究課題名(和文) 共生的な教職キャリア形成を支援する高大接続キャリア教育の開発

研究課題名(英文) Development of the Integrated Career Education of High School and University to Support Inclusive Teacher Career Formation

研究代表者

河崎 智恵 (KAWASAKI, Tomoe)

奈良教育大学・教職開発講座・教授

研究者番号：50346300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、教員養成におけるキャリア教育の在り方を共生の視座より見直し、高校から大学・大学院への接続を視野に入れた、共生的な教職キャリアプログラムを開発することである。本研究では、まず、欧州における教員養成大学の共生的な教育内容について調査するとともに、教職キャリアカウンセリングに関する調査・分析を行い、プログラム開発への示唆を得た。得られた知見をもとに、共生的なキャリア教育のモデルを検討し、高大接続(高校～教員養成大学・大学院)によるキャリア教育プログラム・教材を開発した。最終的に、高校、大学、大学院生を対象とし教育実践を行い、その教育効果を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、教職課程入学前(高校段階)からの教職キャリアプログラムの開発を行うものであり、教職志望者および教師のキャリア形成を支援するという点で、社会的意義があると考えられる。本研究で構想したキャリア教育モデルは、多様性理解等の共生的な視座に基づくものであり、持続可能な社会の実現に寄与し得る。また、教育委員会との協働により開発したプログラムや教材は、高校生や大学生のキャリア意識の向上につながるなど、教育的意義が確認されている。これらの一連の研究成果は、今後のキャリア教育の在り方をも示唆するものであり、学術的意義が高いと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to review the way of career education in teacher training from the viewpoint of inclusion, and to develop an inclusive teaching career program that takes into consideration the connection from high school to university and graduate school.

In this study, we investigated the contents of inclusive education in the teacher training colleges in Europe, and conducted research and analysis on teaching career counselling to obtain suggestions for program development in the Japanese context. Based on the obtained results, we examined a model of inclusive career education, and developed an integrated career education program and teaching materials of higher secondary and tertiary education (a teacher education course from high school to university and graduate school). Additionally, an experimental practice was conducted for high school, university and graduate students, and the educational effect was verified.

研究分野：キャリア教育

キーワード：教職キャリア 高大接続 キャリア教育

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19(共通)

1. 研究開始当初の背景

2011年に、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、新たなキャリア教育の方向性が示され、就学前から高等教育までを見通したキャリア教育・職業教育の充実が求められた(中央教育審議会答申 2011)。既に小学校から大学・大学院に至るまでキャリア教育・職業教育が推進され、様々な取組が拡充されつつある。

教員養成においても、高度な専門的能力の必要性から、専門職学位課程(教職大学院)の新設や、高等学校の教育コースの設置などがすすめられ、教職についての職業教育は重層的に実施されている。また、近年では、キャリアに関する研究領域において、共生的なキャリア形成支援が求められるようになり、「グリーンガイダンス」(環境に配慮したキャリアガイダンス)の必要性が国際的に求められている(Plant 1997)。特に、次世代を担う子供たちを育成する教員には、持続可能な社会の形成に寄与する態度育成が不可欠であり、キャリア教育においても、共生的視点を導入していく必要性がある。

2. 研究の目的

本研究では、先行研究の取り組みをもとに、持続可能な社会の形成に寄与するキャリア教育を、新たに共生的キャリア教育として構想し、そのモデル構築とともに、教員養成大学におけるキャリア教育の方向性を提示する。

本研究の目的は、教員養成におけるキャリア教育の在り方を共生の視座より見直し、高校から大学・大学院への接続を視野に入れた、共生的な教職キャリアプログラムを開発することである。そのために、欧州等における先駆的事例分析をもとに、接続的な教職キャリア支援の在り方を検討するとともに、その結果をもとにプログラムを構想し、実践へとつなげ、その成果について検証する。

3. 研究の方法

本研究では、まず、先駆的な教員養成大学の共生的教育内容について調査した上で、持続可能な社会の形成に寄与するキャリア教育の在り方を検討する。次いで、教職キャリアカウンセリングに関する調査・分析を行い、プログラム開発への示唆を得る。得られた知見をもとに、共生的キャリア教育のモデルを検討し、高大接続(高校～教員養成大学・大学院)によるプログラム・教材を開発する。最終的に、高校、大学、大学院生を対象とし教育実践を行い、その教育効果を検証する。

4. 研究成果

(1) 欧州教員養成大学における共生的な教育に関する実態調査

2016年から2017年にかけて、ドイツのフライブルク教育大学、スイスのヴォー州教育大学を訪問し、教員養成大学の共生的教育の内容について、実地調査を行った。

① フライブルク教育大学

フライブルク教育大学では、Hans-Werner Kuhn氏他へのインタビューおよび関連する授業観察を行うとともに、ヴァイアーホフ実科学校を訪問し、教育実習の観察を行った。

同大学では教職課程の履修規定の中で、学生が獲得すべき力に多様性への視点が位置づけられている点などが特徴的であり、資質能力目標において明確に示されていた。具体的には、「フライブルク教育大学学士初等教育教職課程における履修・試験規定」(2015年5月13日)において、資質能力目標の中で多様性への配慮について記載されていた。例えば、専門的コンピテンシーでは、「多様性のある学習グループにおける授業について興味を引きつけ、個人を伸ばすように形成する基礎的知識を持っている。」、「小学校児童の人間学的、社会文化的・生活世界的に条件付けられた学習前提条件について、学問的に根拠づけられた考えを持っている。」、「児童の言語・コミュニケーション・コンピテンシー、数学的コンピテンシー、諸科目のコンピテンシーを含めて、児童の認知的、社会的、情緒的能力の発達と促進について、特別の学校入学段階への配慮の下に、差異化し、診断に理由づけられた洞察力を持っている。」等があげられていた。

また、教育実習センターにより作成されている、教育実習履修者と実習校のためのハンドブックでは、「ジェンダー：省察用質問」の項があり、ジェンダーについて考えるヒントが具体的に示されていた。さらに、「フライブルク教育大学学士初等教育教職課程における履修・試験規定」においては、当該センター作成の「診断シート」等の様式に基づいて、実習校と大学側の担当教員によって成績証明が出されており、その「診断シート」の項目には、出席状況、内容的側面、教科専門および教授法的能力・教授活動、授業実施、方法の活用等に加えて、「生徒の人間的・社会文化的条件の配慮：特に重要な点としてジェンダーの側面、移民の背景など」に関する事項が含まれていた。

以上のように、フライブルク教育大学においては、コンピテンシーの項目およびハンドブック等において、多様性への配慮が明確に示されるとともに、教育実習等において共生に関わる資質能力の育成が重視されていた。

②ヴォー州教育大学

ヴォー州教育大学では、大学副総長 Guillaume Vanhulst 氏、教育担当部長 Cyril Petitpierre 氏、事務局長 Luc Macherel 氏、フランス語教育学科の Carole-Anne Deschoux 氏、イタリア語教育学科の Rosanna Margonis-Pasinette 氏他にインタビューを実施した。

まず、ヴォー州教育大学の経営戦略としてのガイドラインにおいて、「学生の多様性の統合を促進する」ことが明記されており、経営戦略のひとつとして、多様性への対応が強調されていた。また、ヴォー州教育大学には、卒業、修了までに教員として身につけるべき専門職能力の参照枠（11の項目）が用意されており、その中に「学習上、適応上、または障がい上の困難を持つ児童生徒のニーズと特徴にあなたの介入を適応させる」等が含まれていた。

さらに、11の項目の低位項目においても、様々な多様性が考慮されており、多様性の種類は、文化、言語、障がい、民族、ジェンダーに加え社会的・経済的状況など多岐に亘っていた。また、これらの評価については、受講学生による授業評価に加えて、専門職員によるモジュール評価が実施されていた。そして、モジュール担当者は、この評価により、自身の扱う内容を多様性の視点から見直す機会が提供されるようになっていた。

これらの調査の結果、欧州では、特に多様性に関する視点から共生的教育が実施されており、大学の教育目標、教育課程等においても、明確に位置付けられていた。また、教職の専門性として、また教科の専門性として、社会的な背景、発達における課題を持つ個人への配慮、洞察が求められていることも明らかになった。これらの調査結果より、共生的キャリア教育のモデル構築への指針を得ることができ、本研究成果について、学術論文として発表した（生田 2017, 河崎・吉村 2018）。

(2) 欧州における教職キャリアカウンセリングの調査・分析

欧州では、教職キャリアカウンセリングプログラムが開発、実施されており、高校段階より、教職キャリアについて検討する機会が準備されている。その中でも、オーストリア、ドイツ、スイス等で活用されている“Career Counselling for Teachers”（以下、CCT）およびウィーン大学におけるオンラインによる教師教育用のアセスメントプログラム“Online-Self-Assessment for Teacher Education”（以下、OSA）に着目し、2016年から2017年にかけて、実地調査を行った。

具体的には、CCTに関しては、Johannes Mayr 氏（CCT プログラム開発者）、Florian Müller 氏（CCT オーストリア代表）に、OSAに関しては、Ilse Schritteser 氏（OSA プロジェクトリーダー）、Barbara Neunteufl 氏（調査研究開発担当者）、Rosa Steinacher 氏（プロジェクトコーディネーター）他に、開発の経緯、目的・特徴、実施状況等について、インタビューを行った。

CCT は、1999年に、EU から財政支援を受け、EU プロジェクトとして開始された、オンライン上のカウンセリング提供ツールである。ヨーロッパ6カ国（オーストリア、ドイツ、スイス他）の教員養成機関の共同作業によって作成され、ドイツ語圏ではもっとも流布したオンライン上の教職カウンセリングプログラムである。CCT は、4つのキャリアステージ、すなわち高校生段階、大学生段階、初任期教員の段階、ベテラン教員の段階より構成され、学業および職業の選択時期（高校生段階）から、教職キャリアに関して資質や適性を検討する内容が提供されていた。また「教職に関する興味関心」「パーソナリティ」「予備的な教育的経験」の検討が特に重視され、その内容には、多様性の視座が多く含まれていた。（例えば、「教職に関する興味関心」では、「授業作りをする」ことだけでなく、「社会的関係を促進する」「特別な要望への理解を示す」等の、共生的な関係構築や多様性理解に関する資質・能力に関する内容が含まれていた。）

ウィーン大学における OSA は、大学入学前の Pre-OSA、大学1年次の Post-OSA I、大学2年次の Post-OSA II、の3段階にて構成されており、Pre-OSA は、ウィーン大学の教職課程への入学要件となっていた。OSA においては、入学前段階では、「基盤的なパーソナリティや認知能力」「教育への興味」「教科への興味」を重視し、1年次、2年次と学年が上がるにつれ、教科選択に関わる項目、教育実践経験をもとにした項目が増えていた。また、OSA においても、CCT 同様に、多様性理解に関する資質・能力が重視されていた。

両者の分析の結果、表1

に示すような共通点と差異が認められ、プログラムおよび教材開発への示唆を得ることができた。本研究結果については、学会発表（河崎・吉村・古田 2017）等により、積極的に発信を行った。

	CCT	OSA
共通点	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関する理解および自己理解を目的 ・キャリア形成の振り返り ・教職キャリアの導入期（高校生段階）から対象 ・実施教職課程の入学要件として活用 	
差異	<ul style="list-style-type: none"> ・初等から中等教育の教員養成 ・教職に関する理解や適性 ・高校生・大学生・初任期教員・ベテラン教員 ・欧州諸国（ドイツ、スイス他） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育（ギムナジウム）の教員養成 ・教科（27科目）に関する理解や適性 ・高校生・大学生 ・ウィーン大学

表1 欧州教職キャリアカウンセリングの特徴:

CCTとOSAの共通点と差異

(3) 共生的キャリア教育モデル・プログラム・教材の開発および教育実践

これらの研究成果をもとに、教員養成におけるキャリア教育モデル（河崎・吉村・中井 2015）をふまえて、共生的キャリア教育モデルを構想した。モデルは「個」と「関係性」の発達の両側面より、「自己理解・自己管理」「人間関係・多様性理解」「意思決定・課題対応」「就業・職能開発」「生活実践・ケア」「キャリアプランニング」「キャリア統合」の7つの能力領域から構成される。また、それらの能力領域は互いに関連しながら、精神的自立、生活的自立、職業的自立へとつながるように構想されている。本モデルでは、「人間関係・多様性理解」の能力領域を設定し、共生にかかわる能力を位置付けている点が特徴的である。

構想したモデルに基づき、高校・大学・大学院における共生的キャリア教育プログラムを開発した。また、教材として、欧州のCCTをもとに、キャリアカウンセリングプログラムを試行的に開発した（図1）。

1. 教職への興味・関心

教師の仕事は
あなたにとって魅力的でしょうか？

みなさんは教師の仕事児童生徒の立場から見てきたと思います。けれども、教師の仕事の多くは、児童生徒から「目に見えない形」で行われています。したがって、意識しないと気づかないことも多いです。

以下のリストには、教員の仕事が挙げられています。このリストで、みなさんが教職についてのイメージを描いたり、みなさんがどのように教師の仕事に興味を持っているのか、考えていきましょう。

あなたが教師であると考えてください。次の仕事をどの程度やってみたいと思いますか？

それぞれの質問に、あてはまる番号を記入してみましょう。

番号	まったくやりたくない	どちらかと言えばやりたくない	どちらでもない	どちらかと言えばやりたい	進んでやりたい
1					

- 子どもたちにいろいろなことについて説明する。
- 子どもたちのもめごとを解決する。
- 自分の担当教科の最新情報を得ながら勉強する。
- 子どもたちの学習方法について保護者に説明する。
- （次の学習につなぐために）子どもの達成度を評価する。
- 転入生をクラスにとけこませる。
- 子どもが自分自身で（学習課題などに）取り組むよう支援する。
- 子どもたちと一緒に遠足等に行く。
- 指導上の問題点を同僚と話す。
- 授業のための教材をさがす。
- 新しい授業方法（指導方法）について学ぶ。
- 障がいのある子どもを共に授業に参加させる。
- 子どものために、学習課題を工夫する。
- 休み時間に子どもたちに話しかける。
- ノート（子どもの書いたもの）を添削する。

図1 教職キャリアカウンセリングプログラムの試行的開発（一部）

さらに、2017年度から2018年度にかけては、奈良教育大学および同大学教職大学院のキャリア教育プログラムについて、関連する教育内容（持続可能な開発のための教育(ESD)、多様性理解に関する教育等）との整合性をはかりながら、共生的なキャリア教育プログラムを実践した。また、奈良県教育委員会と協働して、高大接続によるキャリア教育プログラムを構想し、2018年度には、奈良県内の高校生を対象とした教職キャリアプログラムにおいて、教育実践へとつなげることができた。

受講生に質問紙調査を行い、教育効果を検証した結果、大学・大学院生に関しては、多様性に関する理解や、人権意識の深まりなど、関係性に関わる意識や態度の変化が顕著であるとともに、自らの教職キャリアの捉え方にも変化が認められた。また、高校段階については、特に教職キャリアカウンセリングプログラムの有効性が認められ、教職課程入学前からの、教職カウンセリングの必要性が示唆された。

これらの研究結果については、国内外の学会発表（河崎・横山・吉村 2017）、シンポジウム（吉村・河崎 2017）および学術論文（河崎・吉村・横山・吉田 2019）等により広く公開し、研究成果の普及に努めた。

(4) 課題

一連の研究を通して、高校、大学、大学院を対象とした共生的キャリア教育プログラムを開発するとともに、教職キャリアカウンセリングプログラムを試行的に導入・実施することができた。さらに、最終的には教育効果について検証し、一定の教育効果を確認した。

今後は、開発したプログラムの成果検証を重ねるとともに、教員養成における共生的な教育内容の位置付けをより明確にし、多様性理解に関する教育内容の充実を図る必要がある。また高校、大学から教員養成へとつなぐ、教職キャリアカウンセリングツールの開発も急務の課題と考える。

(5) 引用文献

- 中央教育審議会答申（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について。
河崎智恵, 吉村雅仁, 中井隆司（2015）教職大学院におけるキャリア教育のモデル構想と教育実践：初等・中等・高等教育の接続・展開を視野に入れて、日本教育大学協会研究年報，33，63-74。
Plant, P. (1997) The evolving role of the guidance counsellor. Educational and vocational guidance bulletin, 59, 30-34.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

- ① 河崎智恵, 吉村雅仁, 横山香, 古田壮宏 (2019) 教員養成における教職キャリアカウンセリングの検討: 欧州における先駆的プログラムを手がかりに, 奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」, 11, 査読有, 95-100.
https://nara-edu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=13256&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- ② 河崎智恵, 吉村雅仁 (2018) フランス語圏スイスの教育大学における多様性への取組: ヴォー州教育大学の事例を中心に, 奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」, 10, 査読有, 97-103.
https://nara-edu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=12974&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- ③ 河崎智恵, 吉村雅仁, 中井隆司 (2017) 教職大学院におけるキャリア教育実践とプログラム改善: 3年間の教育実践の成果と展望, 日本教育大学協会研究年報, 35, 査読有, 103-114.
- ④ 生田周二 (2017) ドイツにおける市民性・人権教育の一端: フライブルク教育大学における教員養成と政治教育を事例として, 部落問題研究, 部落問題研究所, 220, 査読有, 30-44.
- ⑤ 丸山実子, 河崎智恵 (2016) ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組構築: 日米家庭科教科書分析を手がかりとして, 奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」, 8, 査読有, 59-66.
https://nara-edu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10366&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- ⑥ 丸山実子 (2016) 高等学校・大学におけるライフキャリア教育の実践, 奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」, 8, 査読有, 67-75.
https://nara-edu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10367&item_no=1&page_id=13&block_id=21

〔学会発表〕(計 11 件)

- ① MARUYAMA Jitsuko, KAWASAKI Tomoe (2018) Examination of capacity area on professional life career, IAEVG 2018 conference.
- ② 河崎智恵, 横山香, 吉村雅仁 (2017) 教職キャリアカウンセリングツール“Career Counselling for Teachers (CCT)”の日本における導入・実践, 日本キャリア教育学会第39回研究大会.
- ③ 丸山実子, 河崎智恵 (2017) ライフキャリアの視点からの大学キャリア教育の実践: 総合大学での取り組みを中心に, 日本キャリア教育学会第39回研究大会.
- ④ 吉村雅仁, 河崎智恵 (2017) 日本教師教育学会第27回研究大会公開シンポジウム: 高校・大学・教育委員会連携による職能およびキャリアに関する能力の開発, 日本教師教育学会第27回研究大会.
- ⑤ 河崎智恵, 吉村雅仁, 古田壮宏 (2017) 教員養成大学における教職キャリアカウンセリングの検討: 欧州「Career Counselling for Teachers」の日本版開発に向けて, 日本教師教育学会第27回研究大会.
- ⑥ 家島明彦, 安達智子, 本庄麻美子, 松下眞治, 川崎友嗣, 河崎智恵 (2017) シンポジウム「キャリア、ジェンダー、アイデンティティ」, 日本キャリア教育学会近畿研究地区部会第1回総会・研究会.
- ⑦ 吉村雅仁, 前田康二, 河崎智恵 (2016) 現代的教育課題を意識した実習科目展開とカリキュラム改善, 平成28年度日本教職大学院協会研究大会分科会①「実践研究成果公開フォーラム」.
- ⑧ 河崎智恵, 丸山実子 (2016) 教育学部におけるキャリア教育の授業実践: 教職大学院への接続を視野に入れて, 日本キャリア教育学会第38回研究大会.
- ⑨ 河崎智恵, 小境幸子, 深沢亨史, 高倉亜梨沙 (司会: 三村隆男) (2016) シンポジウム「教師のキャリア形成と教職大学院」, 日本キャリア教育学会第38回研究大会.
- ⑩ KAWASAKI Tomoe, YOSHIMURA Masahito, NAKAI Takashi (2015) 教師の発達を支援するキャリア教育プログラムの開発・実践 (Development and Practice of a Career Education Program to Support Teachers' Advancement), IAEVG 2015 conference 日本大会.
- ⑪ MARUYAMA Jitsuko, KAWASAKI Tomoe (2015) 女子大学におけるライフキャリア教育の授業開発 (Development of Career Education at Women's University), IAEVG 2015 conference 日本大会.

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：生田 周二
ローマ字氏名：(IKUTA, shuji)
所属研究機関名：奈良教育大学
部局名：教職連携講座
職名：教授
研究者番号：00212746

研究分担者氏名：吉村 雅仁
ローマ字氏名：(YOSHIMURA, masahito)
所属研究機関名：奈良教育大学
部局名：教職開発講座
職名：教授
研究者番号：20201064

研究分担者氏名：粕谷 貴志
ローマ字氏名：(KASUYA, takashi)
所属研究機関名：奈良教育大学
部局名：教職開発講座
職名：教授
研究者番号：10405079

研究分担者氏名：山本 吉延
ローマ字氏名：(YAMAMOTO, yoshinobu)
所属研究機関名：奈良教育大学
部局名：教職開発講座
職名：特任教授
研究者番号：20613714

研究分担者氏名：古田 壮宏
ローマ字氏名：(FURUTA, takehiro)
所属研究機関名：奈良教育大学
部局名：教職連携講座
職名：准教授
研究者番号：60453825

研究分担者氏名：中澤 静男
ローマ字氏名：(NAKAZAWA, shizuo)
所属研究機関名：奈良教育大学
部局名：教職連携講座
職名：准教授
研究者番号：80613710

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：石井 宏典
ローマ字氏名：(ISHII, hirofumi)

研究協力者氏名：横山 香
ローマ字氏名：(YOKOYAMA, kaori)

研究協力者氏名：丸山 実子
ローマ字氏名：(MARUYAMA, jitsuko)